

学校点描

新生徒会三役（会長、副会長）と
ランチミーティングをはじめまし
た。挑戦したきっかけを聞きます。
《M中学校》

NO.10

R5. 9. 20

担当：校長

9月7日（木）にS市民プラザを会場に地区英語暗唱大会が開催されました。本校からは3年生のY・KさんとK・Wさんが出場しました。Kさんの暗唱文のタイトルはThe Little Prince、Wさんの暗唱文のタイトルはThe Fall of Freddie the Leafでした。前日には、1年生の英語の時間を使って、発表してもらいました。後輩たちは、先輩の英語を使った表現力に驚いていたようです。この中からぜひ、自分も挑戦してみたいと思う生徒が出てくることを期待しています。

9月1日（金）に生徒会役員選挙が行われ、新生徒会長にI・Fさん、副課長にK・Kさん、K・Tさん、議場にI・Hさん、S・Hさん、JRC委員長にA・Mさん、応援団長にY・Mさんが選出されました。他に2学年選挙が行われ、事務局長にW・Rさん、事務局員にT・Yさん、N・Nさん、学級委員長にT・Tさん、生活委員長にS・Aさん、整美委員長にS・Yさん、給食委員長にN・Mさん、放送委員長にO・Mさん、図書委員長にK・Nさん、保体委員長にO・Yさんが選ばれました。M中の新しいリーダーが3年生から2年生に代替わりしようとしています。

9月16日（土）、17日（日）に地区新人総体が各会場で開催されました。結果、団体競技の部において、軟式野球競技で最上・舟形合同チームが優勝、サッカー競技で優勝、柔道男子団体で準優勝、ソフトテニス男子団体で準優勝、女子バスケットボールで第3位、卓球男子団体で第3位、卓球女子団体で準優勝、個人競技の部で、柔道男子個人55kg級でK・Kさんが優勝、90kg級でT・Yさんが優勝、50kg級でK・Sさんが準優勝、ソフトテニス男子個人でK・S & S・Jペアが第3位と2年生が中心となりどの部も好成績をあげました。

3年生のN・Kさんが特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」のセーリング競技に山形県代表で選出されました。9月29日のY県庁で行われる団結式に出席して、10月6日（金）～10月7日（土）の大会に挑みます。本校から国体選手が出るとはすごいことです。

家族青春時代

今年の地区新人戦は、どの競技も大会運営がとても難しい大会でした。何よりもこの夏からの高温が続き、熱中症対策について神経を尖らせることが必要だったからです。初日は思わぬ雨に見舞われましたが、それも最近の異常気象を物語ります。

それでも中学生たちは新しいチームになっての大きな公式戦として一生懸命試合に挑んでいます。わたしが担当したソフトテニスでも、コート内の選手だけでなく、ベンチ外の選手、フェンスの外の保護者の方々が一生懸命声援しています。

コロナ禍では声を出しての応援が規制されていたので、ようやく選手も保護者もそれぞれの思いを精一杯表現しています。M中の選手は、負けた試合でも、悔しさを押さえながら、相手チームと握手を交わしている姿がありました。

わたしの娘は医療系の大学を卒業して、病院勤務をしています。家から離れた娘の部屋の後片付けをすると、もう誰も手にすることのない卒業アルバムが出てきました。



わたしは、アルバムを見ながら今となっては遠くになった昔を思い出すのです。わたしの町内には、毎年、小学生による地区対抗リレー大会があります。子どもの数が多くない町内なので、ほとんど全員が選手でした。へたをすると、小学校2年生が3年生の区間を走らないといけないということもあります。ある日、家に帰ると、テーブルの上に、小学生の娘からの手紙が置いてありました。“明日の朝6時に起こして下さい” 翌朝、言われたとおりに朝起こすと、「リレー大会の練習付き合っ！普通の徒競走なら転んでも自分だけの問題だけど、リレーはみんなに迷惑がかかるから」と言って、リレー練習につき合わせられました。おかげで、それからの数週間は、朝からダッシュとバトンパスの繰り返しです。体の節々が痛くて、仕事にならなかった思い出が蘇ります。

古来、中国では季節を四つの色にたとえてきたそうです。春は青、夏は朱（赤）、秋は白、冬は玄（黒）。この例えは、人生を表わす比喻にも用いられてきたのです。ここから「青春 朱夏 白秋 玄冬」の言葉が生まれたという話です。わたしは、家庭、家庭ごとに、『青春時代』があると思っています。子どもが思春期の時代ではなく、子どものために家族がそれぞれ自分の時間を削っていた時代が『家族青春時代』です。部活動の遠征や送迎、学校行事への参加、休日はゆっくりしたいものですがつつい子どものためにと、疲れた体にむち打って過ごしていた時代は、家族にとって青春なんです。いつか振り返ったとき、「あの頃が家族の『青春時代』だったなあ」と、思い返す時が必ず来ます。

優勝なんてほど遠い、予選すら通過できないリレー大会の6年間でした。その後は、中学生になり、小さい体で大型の金管楽器チューバを吹く娘の雇われ運転手になりました。コンクール前は、学校からチューバを持ち帰り、友人宅や公園で練習するのですから。その度に、言われるがまま、汗をかきながら楽器を運ぶ手伝い屋です。今はもう慣れた病院務めで忙しいのかメールは、ほとんど来なくなりました。一生懸命、朝に、夕方に、深夜に出勤しているみたいです。



そうやって、いつの間にか、わが家の青春時代は終わりました。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。